

会員の広場



私のゴルフに奇跡が起きた

小長井 孝（東京）

1999年6月から社命で、米国CA州シリコンバレーで仕事をする事になった。多くの人からゴルフが安くできてうらやましいと言われたが、当時ゴルフに無縁の私には馬耳東風だった。ところが、現地法人（私の関わった米国子会社）が駐米日系企業グループ

に入っていたことから、翌年どうしてもゴルフをせざるを得ない羽目になった。主題から外れるので説明は省くが、それが57歳での私のゴルフデビューであった。クラブを野球のバットと思えば何とかなるだろうと始めたが、止まっているボールを打つのがこんなに難しいものかと、ずいぶん苦労した。

それでも、何事も続ければ何とかなるもので、3年後日本に戻った時は、下手なりに少しはラウンドを楽しめるようになっていた。牛歩の歩みで10余年、100切り寸前までくも、練習嫌いも災いし足踏み状態。リタイア後地元自治会に関与、さらにお世話になった会社・業界にも関わり始めたため、ゴルフどころではなくなった。やがて腕前は坂道を

転げ落ちるが如く悪化、昨年遂にスコアはゴルフを始めた頃の130超に。コースに出る資格がない酷い状態で、ゴルフを止めようかと逡巡したが、気分を転換、道具を一新して駄目ならきっぱりやめる、と決心した。

3月に、某有名ブランド品が4割引、のチヤンスに出合い迷わず購入した。相性があったのか、ラウンド毎にスコアが10打改善し、気持ち前向きになった。私のゴルフに奇跡が起きたのは、買い替え後3回目のラウンドで、地元の仲間と久しぶりにコースに出た時のことだった。

スタートは、326Ydsの短いミドルホール。ドライバーを軽やかに振ったところ180Yds近辺まで飛んだ。第2打をスプーンで

挑戦。信じられないことだがキャディー曰く、「グリーンに乗ったのでは」。半信半疑で駆けつけたが、ボールはなかった。一旦は乗ったがこぼれたか、ということとで周辺を丹念に探したが見つからない。再びキャディーが、これだけ探さないなら後はここしかない、とグリーンを指差し、あった！と発声。2オンでさえ有り得ない私が、2打でカップインを成し遂げた瞬間だった。ショットで失敗し100切りは未達でも、爽快な気分が襲われた。さらにキャディーから、十数年ここでやってきたがこのホールでイーグルは聞いた事がない、と言われ、結果として奇跡的な体験をしたことになった。今年は何とかアンダー100を達成したい。